

【 自転車の歴史 】

ヨーロッパの自転車史	日本の自転車史	自動車史	世界史	日本史
			1789 フランス革命	
			1815 ワールテローの戦い	
1818 カール・フォン・ドライス男爵が自転車を発明。 (ドライジーネ)				1821 伊能忠敬による日本全図完
			世界初の写真撮影 1825 (ニセフォール・ニエプス フランス)	
			最初の鉄道開通 1830 (リバプール・アンド・マンチェスター鉄道 イギリス)	1837 大塩平八郎の乱
			1840 アヘン戦争	
			1848 米で婦人参政権運動開始	1841 天保の改革
				1853 黒船来航 1859 安政の大獄 1860 桜田門外の変
1861 パリの馬車職人ミショー親子が、自転車の大量生産を始める。 (ミショー型ボーンシェーカー)			1861 南北戦争	
			1863 リンカーン大統領「奴隷解放宣言」	
	1865 この頃、初めて自転車が輸入される		1865 メンデル「遺伝の法則」	1867 大政奉還 1871 廃藩置県
			1876 ベルが電話を発明 1877 エジソンが蓄音機を発明	1877 西南戦争
1880 この頃、イギリスで自転車の技術開発が進む。 (オーディナリー)			1881 グッチオ・グッチ誕生 (ファッションブランド イタリア)	
1885 イギリスのローソンがチェーン付きの自転車を発明。(ビシクレット) 現在の自転車の祖。 大量生産が進み、誰もが買えるほど安くなった。				1885 内閣制度確立(伊藤博文)
			1889 エッフェル塔完成	1887 東京に電灯が付く 1889 大日本帝国憲法公布 第一回帝国議会
	1890 宮田工業(株)が国産自転車を初めて試作			1894 日清戦争
			1895 レントゲンがX線を発見 (ドイツ)	
			1897 ディーゼルエンジンが商品化	

【 自転車の歴史 】

ヨーロッパの自転車史	日本の自転車史	自動車史	世界史	日本史
	1900 日米富士自転車がアメリカ製の自転車を輸入、月賦販売を始める。		1903 ライト兄弟が飛行機を発明(アメリカ)	1904 日露戦争 1905 「吾輩は猫である」発表 1912 大正天皇即位 1914 第一次世界大戦
	1920 国内自転車保有台数200万台	1920 ヨーロッパで急速に普及 1923 日本で路面電車の代わりにフォード社のT型を800台輸	1915 アインシュタインが相対性理論を完成 1920 国際連盟成立	1923 関東大震災 1926 昭和天皇即位
	1928 国内自転車保有台数500万台を突			1931 満州事変 1932 5.15事件
	1932 この頃、交通の中心が自転車になる(荷物の運搬)		1933 ヒトラー内閣成立	
	1935 この頃、女性の乗輪に対する違和感が消えつつあった			1936 2.26事件 1937 日中戦争(盧溝橋事件) 1939 第二次世界大戦勃発
	1936 スポーツ車の販売が伸びる			
	1941 帝国陸軍歩兵部隊(銀輪部隊)がフィリピン、マレー半島行軍	1945 これ以降、GHQがアメリカ車を大量に持ち込む	1947 トランジスタの発明(アメリカ) 1948 世界人権宣言	ポツダム宣言受諾 1945 農地改革 財閥解体 1946 日本国憲法公布
		1950 この頃、トラック、商用車中心に発展		1951 サンフランシスコ平和条約 1953 テレビ放送開始
		1953 国産車生産台数が7,000台になる 1956 国産車生産台数が2万3千台になる		
	1957 この頃、サイクリングブームが起き		1959 バービー人形発売開始	
	この頃、自転車が花嫁道具の一環に推奨される 1960 主婦が自転車に乗って買い物に出かけるようになる 駅前駐輪場が出来るようになる		1961 世界初の有人宇宙飛行(ロシア)	1964 東海道新幹線開通 東京オリンピック開催